

医療生協わたり病院 医学生通信

〈第7号〉 毎月1回発行

医学生担当事務 を紹介します！

遠藤院長が沖縄の実習生に喜多方を案内してくれました (5/3)



〒960-8141 福島県福島市渡利字中江町34
医療生協わたり病院 医局事務課
tel.024-521-2056 Email : rinken@fmc.u-coop.or.jp

医学生担当事務を医療生協わたり病院は配置しています。医学生担当事務って何？その役わりについて紹介したいと思います。

学生担当の仕事

医学生担当事務は、医療生協わたり病院をみなさんに知っていただくことを第1の目標としています。

高校生向け企画を開催したり、医学生対象の学習会の企画、各種催し、医学生実習の

計画・立案などを行っています。

黒子的存在として、先生方はじめ、現場のメディカルスタッフ、学生さんと対話し、時には夢を語り合い、わたりの魅力をどうすればみなさんに実感してもらえるかを考えながら、日々奮闘しています。



実習受入前の打ち合わせのようす

担当者に聞きました！

「福島医療を救おうよ！」

みなさんこんにちは！僕は医学生の皆さんの実習のあれこれをサポートしたり、医療スタッフを目指す高校生の皆さんのあれこれをサポートしたり…、そんな仕事です。この仕事の特徴？酒飲む機会が増えました（笑）。もちろん先生方と学生さんとですよ！逆に言うと、医師と医学生の出会いをセッティングするのが僕の仕事と言ってもいい。じゃあ乾杯つつって僕もその場に居合わせる（笑）。まあ、飲み会ばかりじゃなく、食事会とか楽しいことを企画して、大学ではふれあえないような医師と医師を目指す人を仲良くさ



せるのが醍醐味ですねえ。

真面目な話をしろと言われたので一つここで。福島県は絶対的にお医者さんが足りないんです。決定打になったのは、2年半前の東日本大震災でしたが、実はそれ以前から医師不足の県だったというのが僕らの見方です。お涙ちょうだいではなくて、福島県の医療を、みんなに救ってほしい。津波や原発被害でやられてしまった地域の方々が住んでいる仮設住宅に医学生を連れて行くと、みんな感銘を受けます。津波で家も家族も流され、原発の影響でもうふるさとは帰れないかもしれない人々が、福島県の様々なところに未だ避難しています。そんな人たちが必要としているのはせめてもの健康と、それを支える医師の存在ですからね。



学生みんな集まれ！南福島に 医学生センター“みんぐる”が開設！

<医学生センター みんぐる 住所 福島市伏拝字台田2-3 TEL 024-563-4714>



医療生協わたり病院が加盟している福島県民主医療機関連合会（福島県民医連）では、県内全域で加盟している医療機関と私たちの医療活動や取組みを紹介する場として、また医学生のみなさんが気軽に立寄り、学習や交流ができる場として、医学生センター“みんぐる”を開設しました。

(map)



医学生センター“みんぐる”では、毎月1回学習会を開催しています。私たちが加盟している全日本民主医療機関連合会では、毎年8月に全国の医学生が一同に会し学習、交流する「医学生をつどい」を開催しています。

期医療の取組みと、チームとしてのメディカルスタッフの関わり方を、医学生のみなさんと学んできました。

“みんぐる”は英語の[mingle]から来ています。(いろいろな要素が) 混ざる、交際する、参加する、パーティなどで歓談する、などの意味があります。

今年のテーマは「終末期医療」、これまでつどいの参加に向けて私たちは医療生協わたり病院の医師・看護師・社会福祉士も参加して、わたりでの終末

医学生のみなさんへ
Would you mingle with us!



6/12、看護師・社会福祉士を講師に、わたり病院の終末期医療について学びました。

今年も好評の臨床実習前学習会が始まりました。

10月1日、臨床実習前学習会が開催されました。

この学習会は、4年生のみなさんがスムーズに臨床実習にのぞんでいただくために月一回程度ずつ学習会を開催していきます。ここ20年、福島県立医大のみなさんに大変好評をいただいている企画です。



医局長の渡辺亜貴子医師

第1回目は、医局長の渡辺亜貴子先生を講師に「神経所見のとりかた」をテーマに行いました。

11名の福島県立医大生のみなさんを前に、亜貴子先生がオスキーのテキストをもとに実演し、学生さんは組になって実技に取り組みました。座学とちがって、飽きることなく楽しみながらも真剣に取り組んでいました。「オスキーに向けてモチベーションも上がりました。」と参加学生さんより感想をいただきました。

今回は、11月12日(火) 18:30からです。みなさんもいっしょに学びませんか？



医療生協わたり病院緩和ケア病棟開設 緩和ケア講演会を開催しました。

5月より開始した緩和ケア病棟も4か月が過ぎました。当院では定期的に緩和ケアの講演会や職員向け学習会を行っています。

10月10日、ウェディング エルティを会場に、緩和ケア病棟開設にあたり職員研修でもお世話になった埼玉県 みさと健和病院 緩和ケア科 久保周先生に「みさと健和病院緩和ケア病棟4年半を振り返って」をテーマに講演をいただきました。

県北地区初めての緩和ケア病棟は、内外からの関心が高く、この日も地域の先生方をはじめ、看護師、社会福祉士を含むメディカルスタッフ総勢140名の参加となりました。医学生3名も参加しました。

久保先生は、緩和ケア病棟の抱える難しさや今後の展開について話されました。そして、地元が開かれた緩和ケア病棟になるためには全て、ボランティアも含めた多職種チームアプローチが必要と強調されました。

